



2月4日は立春でした。暦の上では春の始まりです。まだまだ寒い日が続きますが、少しずつ春が近づいているのでしょうか。天気の良い日は散歩に出かけ、春を探してみませんか。



## 手当て

手当てにはたくさんの意味があります。その中に『病気やケガの処置をすること』とあります。熱が出た時、おでこに手を当ててもらおうと何故かからだの辛さが和らいだことはありませんか。痛い場所をさすってもらった時、何故か痛みが和らいだことはありませんか。手を当てるだけの行為ですが、辛さや痛みを和らげる効果があるのは何故でしょうね。

私たちの手には、そんな不思議な力が備わっています。疲れた時、落ち込んだ時、泣きなくなった時など、子どもの手をそっと握ってみてください。子どもの手から不思議な力をもらうことで元気になれるですよ。

\* 病気やケガが完治するわけではありませんので、必ず受診してくださいね。



子どもからパワーを貰ったら、お返しを忘れないでくださいね！子どもを抱きしめたりダッコしたり…いっぱい触れ合って、感謝の気持ちを伝えてください。



## 傷の手当の新常識（消毒液の効果と弊害）

ケガをした時、どのような処置をしていますか。傷口を消毒液で消毒して…以前はこの方法が基本と言われていました。現在は傷口を水道水で洗って終了です。理由は、消毒液はバイ菌をやっつけてくれますが傷を治そうとしている細胞もやっつけてしまうからだそうです。「傷口は消毒しない、乾燥させない」が鉄則です。保育園では、自分で治そうとしている細胞の力を阻害しない現在の処置法を行っています。浅い傷に対しては、水道水でよく洗い流し、傷口を乾燥させない被覆材で覆います。

\* 砂やガラスが残っている傷、動物に咬まれた傷、刺し傷、裂傷など深い傷は例外です。消毒をして受診しましょう。

## やけどにご注意ください



やけどは1年中みられるケガの一つです。しかし、暖房を使うこの時期はケガをする危険度は増します。ここ数年、園児のやけどの原因は、炊飯中の蒸気、ポットの蒸気、熱い鍋、花火、ヘアアイロン、アイロン、暖房器具となっています。家電や暖房機具を使う時は、ご注意ください。

### 処置の方法

- ★とにかく冷やす（最低でも10分は冷やす）
- ★赤くなってしまったら、やけどの薬を塗りましょう
- ★水疱になってしまったら、⇒水疱が破れないようにしながら、必ず病院へ行きましょう

ほけんだより 1月号に載せた野菜の名前はわかりましたか？

トマト、長ネギ、レンコン、アスパラガス、じゃがいも、グリーンピース、カボチャ、ピーマン、人参、カブ、キャベツ、そら豆、大根、キュウリ、里芋、タマネギ、白菜、ブロッコリー、ゴボウ、ほうれん草、ナス、さつま芋 でした。



## 園医の一言

青梅市でもインフルエンザ（A型、B型）が流行中です。また、おたふく風邪で受診するお子さんもいます。ご注意ください。 2月7日付

